



事務所 伊那市西町5016-2 Tel(72)0077 例会日 毎週木曜日 会場 くぬぎの杜 Tel(78)1121
 会長 平澤泰斗 幹事 小河節郎 会報委員長 矢島 豪 第2949回例会 2021.11.25 No.1609



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-22 年度 RI テーマ

Serve to change lives

IGM 例会

時間 11:30～ 於：だるま

会長談話 平澤泰斗会長

本来の IGM ですと、夜間例会で料理を頂きながらお酒を酌み交わし、少しでも話しながら話合いをして頂くのですが、今回も昨年と同じ昼間の IGM とさせていただきます。県内のコロナ感染者は 13 日間連続で出ておりませんが、まだ大人数での飲食を伴った例会は不安を感じましたので、このような昼の IGM といたしました。コロナ感染状況がこのままの状況が続きましたら、新年例会から飲食を伴う例会にするつもりでおります。この後、唐木情報プログラム委員長より本日の IGM のテーマの説明がありますが、これは本年度だけでなく来年度に向けてのテーマでございますので、闊達な御意見を出して頂きたいと思っております。



IGM テーマについて

唐木 章情報・プログラム委員長

- (1) デジタル化推進に向けての問題点について(オンライン会議・YouTube 等)
- (2) RC の認知度をあげるための活動とは



A 班 ◎荒木康雄 ○唐木 拓 中川博司 唐木章 笠井俊朗 唐澤幸利

(1) 80 代、90 代の方にハード面でもどう対応するかが課題。基本は会って話をするコミュニケーションが大事なので、Zoom をやるとしても併用が良い。Zoom は双方向でなくても徐々に進める形で良い。



会う機会がなくなり、会わなくなるのは危険なので慎重に、いざという時のために整備しておくのは良い。将来的には、Zoom のようなものが当たり前になるので、例会に出られない人のためには良い。

- (2) ・天竜川クリーンアッププロジェクトは良かった。続けることも大事だと感じた。

目立つこと、ある程度知ってもらうことが大事。クラブごとだと規模が小さくなるので、合同で開催できたのが良かった

- ・ロータリー杯に代わるもの
- 二年前に開催された風揚げ大会など良いのではないかな。サッカー、ゴルフなど青少年育成の事業が良い。交換留学生も 10 年くらいやっていないのでやっても良いのでは。

B 班 ◎小河節郎 ○堀内厚志 中山一郎

竹腰哲夫 原田和愛 唐澤洋祐

(1) デジタル化は手段であって目的ではない。RC 活動のプロモーション等は YouTube ・Facebook などが有効。また、講演会や地区との業務連絡は Zoom も有効。

一方で例会等、人と人との交流、コミュニケーションの深化自体を目的とするものは、対面でこそ意義が見い出されるものであり、大きな課題を有する。

- (2) ・どう PR するかが重要。地元新聞・CATV 等報道機関、メディアへの取材依頼をし、継続的に PR していくことが有効。また SNS の活用も検討課題である。
- ・RC の奉仕の精神に相応しい、汗をかいてやる本質的な活動を継続し、世間に認知されることが重要。
- ・RC の精神や、根源的活動を個々の RC ではなく、地区主導でプロモーションすることを考えた方が



良い。

- ・ロータリー杯のように、ある特定の人に依存する、或いはせざるを得ないものは長続きしない故、寧ろやめた方が良い。

C 班 ◎平澤泰斗 ○八木択真 藤澤秀敬
三澤清美 本田敏和

- (1) ・使えない人、PCを持っていない人を取り残さないようにする方法を考えないと。
・伊那ケーブルテレビに卓話で講義してもらうのはどうか。
・まずはそれぞれのデジタル環境、習熟度のアンケートを。
・例会の出欠席も LINE アプリが便利。
・YouTube 等に例会の様子をアップしておく、いつでも見られるようになる。
・会議などオンラインでやれば良い。環境ない人は事務局で入れるようにすれば。
・例会会場に Wi-Fi 環境がない。移動 Wi-Fi の導入が可能か ICTV に確認を。
- (2) ・ロータリーは目立ってはいけない、という雰囲気があった。
・課外授業は地味で、認知度につながらないのでは。
・「ロータリーとは」が伝わっていない。紹介 DVD を流させてもらうとか。
・活動紹介のチラシ配る。
・SNS を活用すべき。企業の SNS、HP で拡散してもらう。
・会員の SNS 使用状況のアンケートを。
・伊那バスの車両の後部広告を活用。
・JC や商工会議所、商工会、青年部とコラボして事業を行う。会員増強にもつながる。
・金は RC が出し、実動は JC や青年部で。
・ライオンズとも連携すべき。若手はライバル意識ない。
・地域に対して何が出来るか、各団体総出でワークショップをやってみては。
・第二の伊那まつりを作るとか。
・地元に対する事業に力を入れる必要がある。留学生も地元で困っている人がいるはず。

D 班 ◎藤澤洋二 ○矢島 豪 小林句子
山崎秀亮 本比田哲郎

- (1) ①RC 活動の何をデジタル化するかをまず明確にすべきである。例会はリアルで行い、教育、セミナー



一、遠隔地で行われる会議・大会等・広報等をデジタル化するなどの方針を立てないと、目的によってデジタル化の手法も変わる。

- ②ロータリーの友、月信などのデータ配信を検討すべき。

企業や団体によっては環境配慮のため紙の排出量削減を図っているところも多い。この定期刊行物について希望者にはデータで配信することも検討した方が良い。RC としても環境に配慮した活動となるし、会員にとっても保管場所削減につながる。

ただし、紙媒体が必要な方もいらっしゃるのでは 100%移行はしない。

- ③現在、スマホやタブレット、PC などを使っていない方に対するケアも必要。

いわゆるガラ携をお使いの方などは、デジタル機器に苦手意識を持たれている。例会等で使用・活用方法のセミナーを開くことなども考えられる。

- (2) ①ロータリー杯のような冠大会は文系、体育会系を問わず必要。

上伊那広域連合が事務局の「郷土愛プロジェクト」には、上伊那のさまざまな子供たちの活動の情報が集まっているので、冠大会にふさわしい活動を紹介してもらうことも考えられる。

- ②活動の SNS による広報。

SNS による即時性のある活動広報は効果的と思われる。社会貢献活動の動画を、できれば当日 UP するような、フットワークのいい広報が効果的ではないか。文字中心、固めの文章はあまり注目されない。また、伊那 RC の FACE BOOK アカウントは既にあるということなので、すぐに再起動させるべき。

新聞広告や諸印刷物に URL の二次元バーコードを入れてサイトに誘導するなど、着目率をあげる取組みを、スキルのある方やクラブ広報委員会で行ったらどうか。

反面、発信内容は社会的反響もあるので、複数の方によるチェック体制も重要。

- ③クラブについて会員が満足している点、不満に感じている点。

満足、不満足ともコロナ対応に尽きる。役員の皆様の安全に配慮した運営に感謝申し上げる。ただし、新入会員はじめ会員が十分な交流ができていないことも踏まえ、感染状況にもよるが可及的に昼食、懇親会を再開して欲しい。

